

社会貢献活動

伊藤忠商事は地球的視野に立って「良き企業市民」として果たすべき役割を自覚し、地域社会、国際社会との調和を図り、持続可能な社会の実現に貢献しています。これらを実現するため、5つの重点分野からなる「社会貢献活動基本方針」を定め、グループ会社等とも連携して活動しています。

社会貢献活動基本方針



1. 世界の人道的課題

伊藤忠商事は、グローバルに事業を行う企業として、世界における人道的課題に積極的に関わり、豊かな国際社会の実現に貢献します。



2. 環境保全

伊藤忠商事は、環境保全活動を積極的に行い、社会の持続的な発展に貢献します。



3. 地域貢献

伊藤忠商事は、良き企業市民として地域社会との良好な関係を構築し、地域社会との共生を図ります。



4. 次世代育成

伊藤忠商事は、次世代を担う青少年の健全な育成を支援する活動を行い、心豊かで活力ある社会の実現に貢献します。



5. 社員のボランティア支援

伊藤忠商事は、社員一人ひとりが行う社会貢献活動を積極的に支援します。

社会貢献活動アクションプラン

地域社会及び国際社会と持続可能な社会を実現するために定めた「社会貢献活動基本方針」の中でも特に重要と定める3つの分野に関し、PDCAサイクルに基づき社会貢献活動を推進しています。これらの活動は、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成にも貢献しています。

- SDGsに関する詳細はP11をご参照ください。

課題	2015年度 行動計画	実 施 状 況 ※	2015年度の実績	2016年度 行動計画	SDGs
環境保全を目的とした社会貢献事業の実施およびフォロー 【基本方針2 環境保全】	ボルネオ森林再生事業で植林をした地域の維持管理支援および新規案件の検討		2009年～2016年までに、2億5千万円（グループ会社を含む）の寄付を行い、967haの植林および維持管理を完了した。 また、環境保全を目的とした新規案件として、京都大学野生動物研究センターが国立アマゾン研究所と進めるアマゾンでの熱帯林における生態系保全プログラム「フィールドミュージアム構想」の2016年度からの支援を決定。	アマゾンの生態系保全プログラム 「フィールドミュージアム構想」のマナティーの野生復帰事業を支援開始。 <ul style="list-style-type: none"> ● 半野生復帰用の湖を設置開始 ● 13頭のマナティーの健康診断実施 ● 6頭のマナティーを半野生湖へ放流 ● 3頭のマナティーをアマゾン川へ放流 	13. 15.
地域貢献を目的とした施設運営・啓発活動 【基本方針3 地域貢献】	① 伊藤忠メディカルプラザの支援 ② 伊藤忠青山アートスクエアの企画・運営 ③ 被災地支援の継続		① 資金面、情報面で支援。医療経営講座と称して地域の医療従事者向けの医院経営に役立つ講座を5回開催し、延べ332人が参加。 ② 様々な社会的課題を解決する一助として「アートを通じた社会貢献」をテーマに展覧会16本を出展者と共に企画・実施し、昨年を上回る来場者となり、オープン以来の来場者数は13万人を超えた。 ③ 伊藤忠子どもの夢ファンドを通じて被災地の子どもたちの夢を応援するイベントを5回実施。被災地の岩手県陸前高田市ブランド米「たかたのゆめ」の販売支援として、社内外へのPRを積極的に実施した結果、フード・アクション・ニッポン アワード2015「食べて応援しよう！賞」を受賞。生産農家数：33軒、収穫量：202tと、農業発展に寄与した。	① 資金面、情報面の支援を継続。 <ul style="list-style-type: none"> ● 医療経営講座は6回開催、350人参加。 ● 国際医療交流事業として海外4大学/医療施設との交流事業を行う。 ② 伊藤忠青山アートスクエアの企画・運営 ③ 伊藤忠子どもの夢ファンドを通じ、効果的な被災地支援を実施。本業を通じた被災地支援として、たかたのゆめの生産と販売を支援し、現地の農業発展に寄与する。目標収穫量260t。	3. 4. 10. 11.
次世代育成を目的とした国内外の社会貢献事業の推進 【基本方針4 次世代育成】	① キッズニア東京のエコショップパビリオンの運営 ② インド移動図書館事業の継続推進		① マイ箸、リサイクルせっけん、POCバッグと定期的にエコグッズを変え、年間体験者数も昨年より増加。また、オープン以来12万人の子ども達がアクティビティに参加し、約12万本の苗木に相当する費用をケニアに寄贈。これにより約53haの熱帯林の回復に貢献した。 ② 目標600人の倍以上の1,269人の子どもたちが移動図書館の活動に参加し、読み書きの機会を得た。また、そのうち298人が正規の学校に入学を果たした。2年間の活動の成果と学びをまとめた冊子を制作、行政への提言がなされた。	① キッズニア東京のエコショップパビリオンの運営 ② インド移動図書館事業の継続推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 700人の子どもたちが移動図書館の活動に参加 ● 200人の子どもたちが正規の学校に入学 	1. 4. 10. 13. 15.

※  : 実施  : 一部実施  : 未実施

社会貢献の主な活動：次世代育成

伊藤忠記念財団への支援

伊藤忠商事は、1974年に伊藤忠記念財団（2012年に公益財団法人に移行）を設立して以来、青少年の健全育成を目的とした社会貢献活動を継続して進めてきました。

現在は、「子ども文庫助成事業」（日本人学校、補習校への図書助成を含む）、「電子図書普及事業」を活動の柱に、子どもたちの健全な成長に寄与する活動を行っています。

2014年11月、伊藤忠記念財団は創立40周年を記念して、伊藤忠青山アートスクエアにて一般社団法人 日本国際児童図書評議会（JBBY）と共に「子どもの本の力展」を開催、電子図書普及事業の「マルチメディアDAISY図書」を展示して好評を得ました。会期中、皇后陛下にもご視察いただき、激励のお言葉を賜りました。

マルチメディアDAISY図書とは、様々な障害のために、通常の本では読書が困難な子どもたちに向け、児童書を電子化して配布する事業で、これまで243作品を電子化し、のべ4,327ヶ所に寄贈しました。



伊藤忠記念財団では年に一度、子ども文庫助成事業贈呈式を開催している



2014年「本の力展」マルチメディアDAISY図書の展示

■ 子ども文庫助成（2015年度）

	助成件数
子どもの本購入費助成	44件（うち海外3件）
病院施設子ども読書支援 購入費助成	5件
子どもの本100冊助成	19件（うち海外7件）
海外日本人学校／補習校図書助成	4件
子ども文庫功労賞	3件
東日本大震災被災地支援	11件
合計	86件（うち海外14件）

■ 電子図書普及

	2015年度	累計※
製作作品数	61作品	243作品
送付先	1,022箇所	4,327箇所

※2011年度からの累計

インドでセーブ・ザ・チルドレンと移動式図書館事業を展開

ムンバイ市M-East区で、ストリートチルドレンや児童労働に従事する、学校に通っていない子どもたちを対象に移動式図書館事業を行っています。2013年11月から2015年10月の2年間で2千万円を投じて公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンを支援、移動式図書館として運行するバスにラッピングを施し、椅子、黒板、そして本棚を設置、2名の教育ファシリテーター（※1）とカウンセラーを配置して、学校の学習環境と近い内装にしました。音声や動画などの教材も駆使して楽しく参加できる学習の機会を提供することで、子どもたちが学校へ通うための橋渡しになることを目的としており、この移動図書館を通じて2年間で1995人の子どもたちが学びの機会を得、うち382人が正規の学校教育に戻ることができました。



現地には、まだまだニーズもあることから、伊藤忠インド会社と共に、本プロジェクトの継続支援を決定し、2016年4月からは、実際に現地でプロジェクトの運営にあたっているセーブ・ザ・チルドレン・インドと直接プロジェクトを進めています。

※1 教育ファシリテーターとは、移動式図書館における教員の役割を果たす職員。多様な年齢やバックグラウンドからなる子どもたちが自主的に学び、参加できる学習環境の場づくりを行う。

「キッズニア東京」にて環境パビリオンを展開

伊藤忠商事は2012年4月より、こども向け職業体験施設「キッズニア東京」に環境パビリオン「エコショップ」を展開しています。

伊藤忠が参画する世界的な環境活動「MOTTAINAIキャンペーン」での環境教育のノウハウを活かし、子どもがエコ活動を体感できるように、環境素材を使ったエコバッグ、マイ箸、リサイクルせっけんづくりなど自分だけのオリジナル商品を製作できます。

2015年8月には、商社の仕事を実際に体験できる特別プログラムとして「Out of KidZania コンビニビジネスの職業体験」を東京本社にて、二日間に亘り開催しました。伊藤忠商事が手掛ける多様な事業の中から、「コンビニエンスストア」をテーマに、グループ会社「ファミリーマート」の店舗を、お客様が行きたいと思う「未来のコンビニ」にするための店舗案や商品販促案を子ども達ならではの視点で考えるプログラムです。実際に小学生が考えた販促案が店頭で使用されるなど、伊藤忠商事のOut of KidZania 以外では得られない貴重な体験となりました。今後も、子どもに人気の高い施設である「キッズニア東京」に、グローバルな視点で環境保全について楽しく学べる場を提供すると共に、子ども達に様々なイベントを提供し、持続可能な社会を担う青少年の育成を目指してまいります。



リサイクルせっけんづくりの様子



アウトオブキッズニアに参加した子ども達が「未来のコンビニ」のプレゼンテーションをする様子

認定NPO法人国境なき子どもたち（KnK）のフィリピンでの青少年支援施設「若者の家」支援活動

開発途上にある国々のストリートチルドレンや大規模災害の被災児等を支援する認定NPO法人国境なき子どもたち（KnK）を通じ、2009年12月フィリピンのマニラ郊外にある青少年自立支援施設「若者の家」リニューアルオープンに係る支援を、2012年には子どもたちの将来の自立支援に繋がる職業訓練所の改築の支援を実施しました。また、2013年11月、同施設の地下や屋根を改修したことで、実践的な技術習得のための職業訓練コースの拡充が可能になりました。

また20015年度からも再び、この若者の家の運営に係る費用の支援を行っており、若者の家の子どもたちが尊厳を取り戻し社会に貢献できる大人に成長できるよう教育や食事の提供、心のケア、職業訓練などに使われています。また、当社の支援はKnKフィリピンの活動の安定化につながり、活動継続を可能にする大きな基盤となっているとの評価を受けています。



改修された地下のミシンルーム



KnKフィリピン15周年記念式典に、伊藤忠商事マニラ支店職員が訪問

中国大学生のホームステイ受入

伊藤忠商事では、中国大学生に日本をよく理解してもらうための「走近日企・感受日本」プログラム（中国日本商会主催）に第1回から協力しています。

日中友好の目的で、年2回、中国からの大学生が来日し、民間交流を図るプログラムで、2015年度も5月に第16回、11月に第17回の同プログラムが実施され、伊藤忠グループからそれぞれ3名の社員が中国大学生をホストとして受け入れ、家族と一緒に民間ベースの交流を楽しみました。



着物を着た中国大学生とホストファミリー

日経GSRにて大学生の社会起業家育成支援

伊藤忠商事は、公益財団法人日本経済研究センターが主催する日経GSR（Global Social Responsibility）研究会のプログラムの一つである「日経GSR学生アイデア・コンテスト」を第1回から支援しています。本コンテストは、出場校が企業2社をマッチングさせて、ビジネスを通じた地球規模の社会課題の事業プランを競うものです。

第6回となる2015年のコンテストでは、伊藤忠商事は明治大学牛尾ゼミと明治学院大学GSR研究会を支援し、明治大学チームの「アフリカの乳児死亡率の解決」が「ユニーク賞」を受賞しました。



明治学院大学チームのプレゼンテーション

在日ブラジル人学校の支援

日本の在日ブラジル人学校の子どもたちの直面する課題として、子どもたちの日本語力の不足、貧しい施設や教材不足、不就学児童の多さなどの問題があり、日本で暮らしながら日本の文化や言葉に触れる機会が少ないのが現状です。

2015年10月14日、日伯外交関係樹立120周年を記念して、伊藤忠商事がオフィシャルスポンサーを務める「キッザニア東京」にて、ブラジルをテーマにした貸切イベント「ITOCHU Festa do Brasil」を開催しました。群馬・茨城・埼玉の各県にある6つの学校から約240人の在日ブラジル人小中学生を招待し、キッザニアでの体験を通じた子ども達へのキャリア教育を実施しました。また、オープニングセレモニーでのブラジル人小中学生による国歌斉唱とダンスの披露や、ブラジル国旗にちなんだ黄色と緑のドレスコード設定、ブラジルに関するクイズラリーの実施、全パビリオンでポルトガル語の挨拶が行われるなど、グループ社員の家族を含む920人の来場者がブラジルの文化を満喫しました。また、6校のうちCNBO日伯学園の生徒23名は午前中に伊藤忠商事東京本社を訪れ、金属カンパニーの職場を見学し、伊藤忠とブラジルのつながりについて、ブラジル駐在経験のある社員から学びました。

また、2016年4月17日には、対象を広げ、茨城、東京、神奈川、千葉、埼玉在住のブラジル人小学生、中学生計45名をキッザニア東京に招待しました。



キッザニアにてブラジル人小中学生によるダンスを披露



伊藤忠商事東京本社金属カンパニーの職場見学

夏休み環境教室の実施

伊藤忠商事では、1992年より東京都の小学生を主な対象として毎年「夏休み環境教室」を開催しています。

2015年度は、7月29日に「雲のスペシャリスト」の異名を持つ気象予報士の浅川かがりさんにご協力いただき「お天気パワーで地球を救おう！」というテーマで開催しました。92名の小学生が参加し、雲や竜巻を人工的につくる実験を交えながら、最近の異常気象や地球温暖化問題、自然エネルギーなどについて楽しく学びました。



小中高校生の企業訪問の受入

伊藤忠商事では、文部科学省の指導要領に企業訪問が組み込まれたことに呼応して、「生徒が社会的役割・職業生活を理解し、社会人としての自立を促す」ことを企業としてサポートするために、小中高校生の企業訪問を受け入れています。

2015年度は、東京本社において、近隣地域の青山小学校や、二代目伊藤忠兵衛の母校でもある滋賀県立八幡商業高等学校など、計9校の訪問を受入れました。また、小林会長がふるさと大使を務める福井県若狭町から、三方中学校の企業訪問を2年連続で受入れ、小林会長自らが郷里の中学生へ講演しました。



港区立青山小学校の校外授業「高いところから地域を見る」



滋賀県立八幡商業高校の生徒が、自ら仕入れた日本各地の特産品をPRする様子



福井県若狭町立三方中学校3年生へ向けて小林会長が講演

社会貢献の主な活動：環境保全

アマゾンの生態系保全プログラム支援

伊藤忠商事は、環境保全、生物多様性を目的とし、京都大学野生動物研究センターがブラジルの国立アマゾン研究所と進めるアマゾンの熱帯林における生態系保全プログラム「フィールドミュージアム構想」を2016年度から支援しています。

アマゾンは地球上の熱帯雨林の半分以上に相当し、生態系の宝庫とも呼ばれているエリアです。しかし、急速な経済発展や、現地住民の環境教育不足による森林伐採等から、近年その貴重な生態系が失われつつあります。京都大学野生動物研究センターは国立アマゾン研究所と共同でアマゾンの貴重な生態系を維持する研究及び普及活動を行っており、日本が得意とする先端技術を利用して、保全のための研究や施設整備を日本とブラジルが共同で行っています。これにより、これまで研究が困難だったアマゾンの水生生物（カワイルカやマナティー）や熱帯雨林上層部の研究など、多様な生物や生態系に関する保全研究が飛躍的に進むことが期待されます。絶滅危惧種であるアマゾンマナティーを救う活動もその一つで、伊藤忠商事はアマゾンマナティーの野生復帰プログラムを支援しています。密漁に伴う負傷などにより保護されるマナティーの数が増える一方で、自立的な野生復帰は難しいことから、マナティーの野生復帰事業の確立が急務となっております。伊藤忠商事の支援により、3年後に9頭以上のマナティーが野生復帰し、20頭以上が半野生復帰することを目指します。



アマゾンの熱帯雨林は世界最大で、地球上の酸素の1/3を供給するといわれている



絶滅危惧種のアマゾンマナティー

ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラム

伊藤忠商事は、2008年の創業150周年を記念する社会貢献活動として、社員アンケートにより要望の多かった「森林保全」をテーマとした本プログラムの実施を決定し、2009年度から公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWF）と協業し、ボルネオ島での熱帯林再生及び生態系の保全プログラムを実施しました。ボルネオ島北東部のマレーシア国サバ州北ウルセガマにおいて、WWFが現地サバ州政府森林局と連携して森林再生活動を行い、2016年1月14日、再生を支援した全967ヘクタールの植林及び維持管理作業が完了しました。これは一般企業の植林活動支援としては最大規模の面積です。絶滅危惧種に指定されているボルネオオランウータンの生息地域であることから、このプログラムをITOCHU Group：Forest for Orang-utanと名付け、伊藤忠グループ各社と協力して推進しました。グループ会社も含めた社員ボランティアが現地での植林活動（植樹、草刈など）や野生動物の観察等を目的に4年に亘り現地へ定期的に訪れました。

伊藤忠グループの約7年間にわたる本プログラムを通じての支援により、ボルネオ島の熱帯林という世界的に貴重な森林生態系の保全に大きく寄与したことに関し、WWFジャパン 筒井隆司事務局長より感謝状が贈呈されました。



苗木の植樹

マニラ麻農園リハビリテーション・プロジェクトを支援

1912年に開設したマニラ支店の100周年を記念し、2012年6月にフィリピン中部のソルソゴン州農村地帯においてマニラ麻農園リハビリテーション・プロジェクトの支援について、フィリピン繊維産業開発局及び地元の農業組合であるSt. Ann's Family Service Cooperativeと協定を締結しました。これに基づき、90ヘクタール分（約14万4千本）のマニラ麻の植付と栽培に必要な資金の全額である200万円を拠出、2015年6月までに全ての作付が完了しました。また、本プロジェクトを通じて年間18トンのCO2吸収が見込まれています。



キッサニア東京「エコショップ」出展によるケニアの植林活動支援

伊藤忠商事は、こども向け職業体験施設「キッサニア東京」に、子どもがエコ活動を体験できる環境パビリオン「エコショップ」を2012年4月から展開しています。当パビリオンでは、子ども一人の参加ごとに、植林用の苗木1本分の費用がケニアの植林活動である「グリーンベルト運動」に寄贈される仕組みとなっており、2016年3月迄に約12万人の子ども達がアクティビティに参加し、約12万本の苗木に相当する費用をケニアに寄贈しました。この費用は、ケニアにおける植林の他にも、森林再生の取り組みを継続する際の雨水貯留や、生態学的に健全な森林資源の活用を目的とした地域住民へのワークショップの実施等に使用されています。



子どもの参加1人につき、植林用の苗木一本分の費用を「グリーンベルト運動」に寄贈



ケニアの植林活動（写真提供：毎日新聞）

社会貢献の主な活動：地域貢献

「伊藤忠メディカルプラザ」設立で、神戸医療産業都市の発展へ寄与

2014年10月、国内最大級の医療クラスターである神戸医療産業都市に国際医療交流を目的とした施設「伊藤忠メディカルプラザ」がオープンしました。伊藤忠商事は運営主体の公益財団法人神戸国際医療交流財団に対して建設資金として5億円を寄付しています。東南アジアを中心とした諸外国の医師や医療関係従事者へ教育・技術トレーニング等の人材育成や、海外からの研修生受入事業、大学などと連携した医療機器開発、地域の医療業者向けセミナーなど各種研究事業等の発展が、国内外で期待されています。2015年度は医療経営講座と銘打ち、地域の医療従事者向けの医院経営に役立つ講座を5回開催し、延べ332人が参加しました。



伊藤忠メディカルプラザ外観

地域のCSRの拠点「伊藤忠青山アートスクエア」

2012年10月に東京本社に隣接するシーアイプラザに、CSRの拠点として「伊藤忠青山アートスクエア」をオープンしました。アートを通じた「次世代育成」、「地域貢献」、「国内外の芸術や文化の振興」を目的に、みずみずしい感性あふれる優れた作品展や国際交流の懸け橋となるイベントなどを、さまざまな文化が息づく街、東京・青山から発信しています。2015年度は下記の通り16件の展覧会を行い、2016年3月末時点でオープン以来の来場者数は13万人を超えました。今後も、伊藤忠は、アートを通じて様々な社会的課題に取り組み、定期的に展覧会を実施することによって、地域の生活文化創造への貢献を目指していきます。



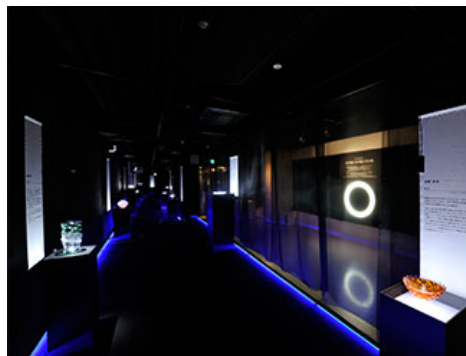
伊藤忠青山アートスクエア外観

会期	展覧会	課題	概要
2015年4月2日～ 4月24日	Get in touch “Warm Blue” MAZEKOZE Art	障害者自立支援	国連が定めた「世界自閉症デー」（4月2日）に合わせ、自閉症も含めた全てのマイノリティ領域への啓発活動が続ける（一社）Get in touch（代表：東ちづる）と共催した、世界自閉症デーコンセプトカラーである「ブルー」をテーマとしたアート展。
2015年4月29日～ 5月3日	バナナがアート！ バナナでアート？	次世代育成	Dole社と共同開催した、バナナに彫刻を施してアート作品に仕上げる次世代アーティストのバナナ彫刻師山田恵輔氏の作品を展示。また、バナナの生産から、日本にバナナが輸入されるまでの過程など、さまざまな角度からバナナを紹介。
2015年5月5日～ 5月31日	自転車博覧会2015 バイシクルタウン青山	地域貢献	「自転車月間」である5月に、3年目となる自転車博覧会を開催。青山近隣のサイクルショップと連携した『Aoyama×Bicycle』と、自転車の可能性・多様性を紹介する『Diversity×Bicycle』の2大テーマで実施。
2015年6月5日～ 6月28日	引きあうカ イラスト～造形～ファッ ションまで	障害者自立支援	幼少期から青・壮年期にいたるまで一貫して障害児者支援に取り組む「社会福祉法人友愛学園」内の工房YUAIで生み出されたファッション、手漉き和紙、イラスト、埴輪、鉢、巨大造形などの作品を展示。
2015年7月3日～ 7月12日	見参 -KENZAN2015-	次世代育成	美術界の次世代を担う作家達が、自ら自分達の芸術環境を創造することを目的とする「見参プロジェクト」の第4回グループ展を、初めて伊藤忠青山アートスクエアで開催。前半の「青組」（7月3日～7日）と後半の「山組」（7月8日～12日）に分け、150名超の若手アーティストの作品を展示。

2015年7月14日～ 7月26日	はがきで綴る戦争の記憶 -千の証言展	次世代育成	戦後70年の節目に、毎日新聞社とTBSテレビが進めた、戦争や戦時中の体験を次世代に伝える「千の証言」プロジェクトに寄せられた1000通を超える証言を、はがきや関連する品物、写真、映像、取材記録などを通して多角的に展示。
2015年8月2日～ 8月29日	にしのあきひろ絵本原画 展 in おとぎ町ビエンナーレ	次世代育成	よしもとクリエイティブエージェンシー所属 漫才師（キングコング）の西野亮廣氏の絵本原画展。全国各地で開催された集大成として過去最大の150点規模の個展をクラウドファンディングを利用して開催するなど、業界の垣根を超え、新たな発想でアーティストとして挑んだ。
2015年9月1日～ 9月6日	赤坂消防署 防災救急フェア	地域貢献	9月1日「防災の日」にちなみ、赤坂消防署と地域が協力して、万が一の首都直下地震等に備えた訓練や体験のできるイベントを開催。防災や救急への理解を深めることができる展示や体験コーナーにより近隣企業と地域住民への防災に対する意識向上に貢献。
2015年9月10日～ 9月27日	ニッポンの前掛け展	国際交流	日本独特の文化「前掛け」を歴史的なものから現代的なものまで多数展示し、日本の商業史を紐解いた。
2015年10月1日～ 11月3日	日本の伝統工芸 江戸切子若手職人15人展	国際交流 次世代育成	普段は目にしない大型作品を中心に、照明や空間デザインを駆使することで現代アートとしての認知度を向上させようと企画した3回目の開催となる江戸切子若手職人展。
2015年11月11日～ 2015年12月20日	金澤翔子書展 -感謝-	障害者自立支援	ダウン症の書家 金澤翔子氏が、2年前の展覧会以降、国連本部でのスピーチやチェコでの展覧会等での海外での活躍を経て「感謝」をテーマとした2回目の個展。
2016年1月5日～ 1月17日	-アートで祝おう2016- 猿 山 富士山 in 青山展	次世代育成	昨年に続く「干支」をテーマにした新春企画。35歳以下の新進気鋭若手アーティスト総勢100人強が、今年は様々な「猿」と「富士山」をテーマにおめでたい作品を出展。
2016年1月23日～ 2月14日	中村祐子 日本画展 -四季への感謝-	次世代育成	伊藤忠が毎年制作する日本画カレンダーに起用された若手女流日本画家 中村祐子氏の、日本の四季とそこで命を輝かせる生き物たちの美を「截金（きりかね）技法」で描いた原画を多数展示。
2016年2月20日～ 2月28日	東京都立特別支援学校 アートプロジェクト展 ～東京の街を彩る～	障害者自立支援	東京都教育庁が都立特別支援学校57校の生徒から募集した439点の作品の中から東京藝術大学の審査を経て選ばれた作品を約40点展示。生徒たちの芸術性をより多くの人々に知って頂くために初開催。
2016年3月8日～ 3月15日	アートは震災を風化させ ない。 マグダレナ・ソレ 写真展 -SINCE THAT DAY-	被災地復興支援	東日本大震災復興支援として、チームとしてのアカデミー賞の受賞経験を持つニューヨーク在住の写真家マグダレナ・ソレ氏が、震災当初から岩手・福島・宮城を訪れて撮影した作品を展示。3月11日には、マグダレナ・ソレ氏が来日しトークショーを実施。



秋篠宮同妃両殿下、佳子内親王殿下がご来館
(提供：毎日新聞社)



「日本の伝統工芸 江戸切子若手職人15人展」



「東京都立特別支援学校 アートプロジェクト展 ～東京の街を彩る～」



「中村祐子 日本画展 四季への感謝」
中村氏によるワークショップ「截金技法を体験する」

第1回伊藤忠サマーコンサートをサントリーホールで開催

1991年より、伊藤忠商事東京本社にて23回にわたり開催してきたロビーコンサートを、2015年から開催場所をサントリーホールに移し、新たに「伊藤忠サマーコンサート」として記念すべき第一回目が7月22日に開催されました。約1,800名が来場し、高原守さん指揮のもと、ニューヨークシンフォニックアンサンブル（NYSE）メンバーによる演奏と竹下景子さんの司会で大変華やかな会となりました。2015年より実施している次世代育成を目的とした地域の高校生との共演は、都立青山高校オーケストラ部のみなさんがNYSEと共に演奏し、事前に行われた2回の練習会と猛練習の成果を十分に発揮、本番では堂々と共演する姿を見せてくれました。共演曲が終わるとブラボーの声も上がり、鳴り止まない拍手の中、コンサートは大盛況で幕を閉じました。少しでも多くの方々に楽しんで頂けるように、2016年もまた、サントリーホールでの開催を予定しています。



竹下景子さん、高原指揮者、小林会長のミニトーク



サントリーホールでの初の演奏

海外店での地域貢献活動

伊藤忠商事は世界62ヶ国に107拠点の海外店（2016年4月1日現在）を持ち、それぞれの地域において事業活動による地域貢献に加え、地域社会の一員として、地域の課題は何か、伊藤忠らしい貢献は何かについて考え、各地で地域貢献活動を行っています。下記は2015年度に実施した活動の抜粋です。

アメリカ

ニューヨークで社員が公園清掃ボランティアに参加

ITOCHU International Inc.では、社員が、地域貢献となるさまざまなボランティアに年間を通じて積極的に参加しています。

2015年4月22日には、原田社長&CEO（当時）を含む社員と家族や友人合計27名が、NY Cares主催の春のボランティア活動に参加し、Randalls Island（ランドルズアイランド）というマンハッタンの北東に位置する島にある公園の清掃をしました。毎年恒例のこのイベントに今年はニューヨーク市内全5地区の70の公園清掃に4,000名が参加しました。



ブラジル

サンパウロでチャリティバザーに参加

伊藤忠ブラジル会社の社員有志は、日本からの移民が1958年に設立した高齢者の方々の施設「憩の園」にて、2015年8月に行われたチャリティバザーに餃子の屋台を出店、販売し、その餃子の売上に伊藤忠ブラジル会社の社員からの募金と会社からの寄付を合わせ12,461レアル（約40万円）を同施設に寄付しました。



フランス

パリで医療機関への寄付を実施

伊藤忠フランス会社では、2015年度に、パリ・アメリカン・ホスピタルの「2020年に向けた戦略プラン」に基づく設備拡充に20,000ユーロを寄付したほか、小児病院やパスツール研究所等の医療研究機関にも寄付を実施しました。

アラブ首長国連邦

デュバイにて「ビート・ダイアピーティス」チャリティ・ウォークに参加

伊藤忠中近東会社とデュバイ支店の社員とその家族らが、2015年11月20日、糖尿病撲滅のために生活習慣の改善と定期健康診断の受診を呼びかけるイベント「ビート・ダイアピーティス（糖尿病を打ち負かせ）」チャリティ・ウォークに参加しました。



中国

中華環境保護基金会の植林活動へ参加

伊藤忠（中国）集团有限公司（北京）では、2015年4月、環境保全の目的で、上田総代表を始めとする社員32名が、中華環境保護基金会の植林活動へ参加し、北京の南房山区後石門村の植林地区で、3人一組になってエンジュ100本を植林しました。



シンガポール

「サンタ・ラン」で難病の子どもたちの夢実現を支援

2015年11月28日シンガポール会社31名は、メイク・ア・ウィッシュ財団の主催する「サンタ・ラン」に参加し、難病の子どもたちの夢をかなえる手伝いをするための募金活動に協力しました。



フィリピン

災害準備セミナーの実施

近年、フィリピンは大きな災害に見舞われているため、マニラ支店では専門家を招き、災害への備えと心構えを学ぶための社内セミナーを2016年1月15日に開催しました。



トルクメニスタン

日本語スピーチコンテストへの協賛

アシガバッド事務所では、2015年3月にアザディ世界言語大学で開催された「日本語スピーチコンテスト」に協賛し、トルクメニスタンの日本語教育の基盤作りに貢献しています。

国内拠点の地域貢献活動

東京本社

東京本社近辺で、社員による地域清掃活動を実施しています。地域社会の一員として、地元自治会や近隣の他企業の皆さんと協力して清掃や啓発物配付を行っています。



大阪本社

2015年度で7年目を迎えた和歌山県伊都郡かつらぎ町の「天野の里づくりの会」との協働活動は、企業と農村地域の方々が地域資源を活用しながら安心・安全な米作りや地産地消の推進、地域の景観保全に協働参画するプログラムです。毎年春の田植えと秋の稲刈りに、繊維カンパニー若手社員の教育の一環としても取り組んでいます。2015年も5月30日の田植え、9月26日の稲刈りに社員とその家族合計130名が参加、天野小学校の校舎の清掃や引っ越し作業のお手伝いなども行い、「天野の里づくり会」の皆さんと交流を深めました。



中部支社

中部支社では、毎年恒例となっている名古屋伊藤忠ビル近隣清掃活動を2015年11月11日に実施しました。当日は、川島支社長をはじめ、社員20名が参加し、大通りに捨てられた空き缶や、歩道の草叢に散乱していた食べ残しのゴミなどを回収しました。



九州支社

九州支社では、福岡市社会福祉協議会、福岡県経営者協会が主催する福岡県内一斉ボランティア活動「勤マルの日」に2006年から毎年参加しています。2015年11月14日に福岡県内の14の拠点で花の植え替えや海岸清掃が一斉に行われ、九州支社員は福岡市博物館フラワーボランティアに参加し汗を流しました。



中四国支社

中四国支社では、ひろしま駅伝清掃ボランティア、ごみゼロ・クリーンウォーク、フラワーフェスティバル清掃ボランティア、クリーン太田川、マツダスタジアム周辺清掃ボランティア等、地域貢献活動へ積極的に参加すると共に、文化イベント・コンサート等への支援、地域作業所製品の支社員による自主的購入等も行っています。



北陸支店

北陸支店では、2015年10月25日に開催された障害を持つ方々のスポーツ大会である「第24回ほほえみフェスタ金沢」に、伊藤忠グループから20名が、ボランティアとして競技設営・運営総括のお手伝いに参加、参加者の皆さんとの交流を深めました。



社会貢献の主な活動：世界の人道的課題

東日本大震災復興支援

2011年3月に発生した東日本大震災の復興に向けて、長期的な視点で支援活動を行っています。
詳しくはP98～101をご覧ください。

熊本地震被害への支援

2016年4月、熊本県を中心とする九州地域で発生した地震による被害に対し、義援金として国際人道支援組織「ジャパン・プラットフォーム」へ1,000万円を拠出しました。自然災害時の緊急援助をより効率的かつ迅速に行うため、加盟NGOの活動へ分配され、直接的な現場支援に活用されています。

さらに4月18日～27日の期間で熊本地震被害支援の社員緊急募金を実施し、集まった2,565,754円と会社からの同額マッチング分を合わせて総額5,131,508円を、社会福祉法人中央共同募金会に寄付しました。被災状況に応じて熊本県共同募金会および大分県共同募金会に按分の上、送金され、被災自治体を通じて被災された方々に直接分配されます。

また、熊本市からの要請に基づき、支援物資として被災地で必要とされている簡易トイレ1,200個、下着・インナー類1,700枚、枕1,000個（米国陸軍・海軍の寒冷地用防寒着に採用されていたプリマロフト使用）などを、5月初旬までに避難所の方々にお届けしました。

今後、被災地の状況のニーズに合わせて、社員ボランティアの派遣も検討中です。

災害支援義援金

国内外での大規模災害発生に際し、人道的見地より、義援金拠出・物資の提供を行っています。現地の支店・事務所とも連絡をとりながら下記の支援を実行しました。

■ 最近の義援金拠出例

エクアドル地震 2016年4月	2万米ドル（約213万円）
熊本地震 2016年4月	¥10,000,000
台風18号等による大雨被害 2015年9月	¥5,000,000
ネパール地震 2015年4月	¥2,000,000
広島集中豪雨 2014年8月	¥5,000,000
中国 雲南省地震 2014年8月	30万人民元（約513万円）

WFP 国連世界食糧計画への支援

世界の飢餓・貧困問題を少しでも解消するため、国連の食糧支援機関であるWFP国連世界食糧計画の公式支援窓口である国連WFP協会の評議員となり、さまざまな活動に参加しています。

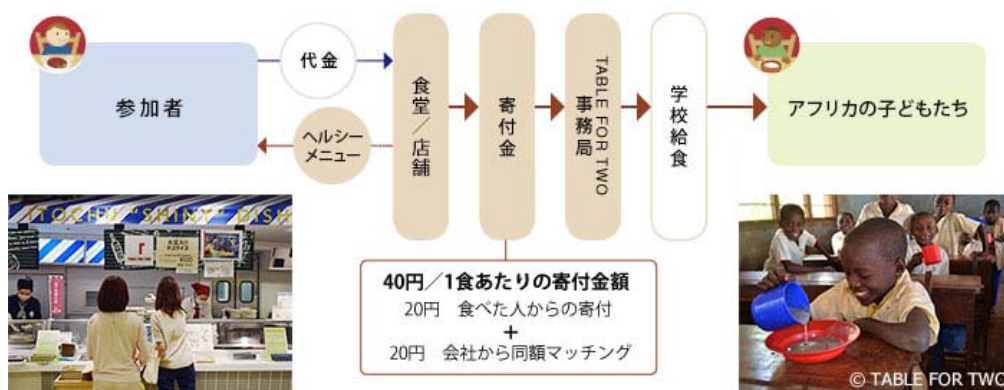
2016年5月に子供の飢餓の撲滅キャンペーンである「ウォーク・ザ・ワールド」が横浜と大阪で開催され、伊藤忠商事及び伊藤忠グループ会社社員が横浜には478名、大阪には214名参加しました。また、東京本社で12月に募金を実施し、WFPの活動をパネルで紹介するとともに、WFPの活動を支援しています。



子供の飢餓の撲滅キャンペーン「ウォーク・ザ・ワールド」に参加（左が横浜、右が大阪の様子）

途上国と先進国の食のアンバランスを解消する「TABLE FOR TWO」(TFT)

「TABLE FOR TWO」(「二人の食卓」)は、開発途上国が抱える飢餓と、先進国が抱える肥満や生活習慣病の同時解決に向けて、時間と空間を越えて食事を分かち合うというコンセプトの社会貢献プログラムです。2007年10月に日本で創設され、伊藤忠商事は他社に先駆けて翌年4月より東京・大阪・名古屋の社員食堂で、本格導入しました。健康に配慮したTFT対象メニューを社員が購入すると、1食につき20円が寄付されます。これに会社も同額を寄付するマッチング・ギフト方式によって、20円が加算されます。つまり、1食につき40円がTABLE FOR TWOのプログラムを通じて開発途上国の子どもの学校給食になっています。現在、東京本社ではTFTメニューを毎日提供しています。



■ 2015年度の取組み

2015年10月には、10月16日の世界食料デーに合わせて「『たかたのゆめ』を食べて届ける！TFT世界食料デーキャンペーン」を実施し、伊藤忠グループが支援している陸前高田市のブランド米「たかたのゆめ」の新米を使用した、東日本大震災復興支援も国際協力も同時にできる期間限定メニューの開発や動画によるTFTの宣伝など、独自の取り組みを行いました。また2015年7月に、「第1回 TABLE FOR TWO 総選挙」にて、TFT導入企業のCSR担当者など約180名の投票により、2014年度の世界食料デーキャンペーンメニュー「5種類から選べるおぼんざい カルシウム強化」がメニュー部門にて大賞を受賞しました。2015年度は、22,896食の利用があり、伊藤忠商事のマッチング寄付を合わせて915,840円(給食換算45,792食分)を寄付することができました。こうした活動が評価され、2016年5月にはゴールドサポーターとして表彰されました。



「第1回 TABLE FOR TWO 総選挙」にてメニュー大賞を受賞した「5種類から選べるおぼんざいカルシウム強化」



「『たかたのゆめ』を食べて届ける！TFT世界食料デーキャンペーン」期間限定メニュー

社会貢献の主な活動：社員のボランティア支援

伊藤忠では年間最長5日間のボランティア休暇を取得できる制度や、休日・昼休みなどに参加できるプログラムなども開催することで、社員の意識醸成に努めています。

東日本大震災復興支援 社員ボランティア

震災直後から始まった復興支援ボランティアを2015年度も継続、伊藤忠グループとして合計65名が参加しました。活動内容は、震災直後のがれき撤去などから、被災者の皆さんの復興を直接支援するものになってきています。具体的には、田植え、稲刈りや、農作業・整地作業、イベント開催支援、子ども向け英語キャンプや少年野球大会運営等の活動を行いました。被災地の真の復興にはまだまだ時間がかかる見込みですが、今後も被災地の状況に即したボランティア活動を続けていきます。



台風18号水害被災の方々へ炊き出しボランティア

2015年9月に発生した台風18号による被害が最も大きかった茨城県常総市で炊き出しのボランティアを行いました。社内で実施した「台風18号大雨被害緊急募金」の寄付先である一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンターのアレンジのもと、市民の広場にて、被災された方々に出来立ての温かいピザをお配りしました。当日は、150食のピザが約一時間半で配布終了し、お子さんからお年寄りまでたくさんの方々に喜んでいただきました。



その他社員が参加できるボランティア・プログラム

■ 飲料自動販売機による「チャイルド・ケモ・ハウス」の支援

日本初の小児がん専門治療施設「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営をサポートするため、東京・大阪本社内にケモ・ハウス仕様の飲料自動販売機を設置し、両ビル内に設置されるすべての飲料自動販売機の売上の6~10%相当の金額を寄付しています。2015年度は計405,775本の売上により、計2,434,650円の寄付を実施しました。



■ 日本赤十字社による献血活動（東京本社） 開催：1月、7月

毎年2回、日本赤十字社による献血活動を東京本社内で実施しています。献血された血液は、手術はもとより、白血病などの治療にも広く活用され、献血の重要性はさらに高まっています。当日の体調、海外滞在時期や地域の規定により、献血できないケースもありますが、毎回、グループ会社を含め多くの社員が会場に足を運んで来ています。

2015年度も2015年7月16日と2016年1月27日に実施し、それぞれ84名（申込者数121名）、87名（申込者数113名）の社員が協力しました。

■ 神宮球場（青山）にて伊藤忠野球教室を開催

青少年育成の一環として障がいのある子ども達に、さまざまなことに挑戦する機会を与えたい、自分の可能性を見出す機会を創出する手助けをしたいとの考えのもと、2007年より野球教室を開催しています。第9回となった2015年度は本社のすぐ近くにある神宮球場に会場を移し、3月6日（日）に開催しました。当日は、さまざまな障がいのある子どもたち50名に対し、約80名の伊藤忠相互会野球部やグループ会社からの社員ボランティアが参加、ヤクルト球団からコーチに迎えた熊田智行さん、山部太さんの指導のもと、お子さん一人一人にボランティアがついてサポートをし、たくさんの笑顔が溢れる教室となりました。参加者の保護者からは「家庭や学校では見られないような活き活きとした姿を見ることができた」などの感想も寄せられ、大変好評をいただき、毎年社員ボランティアも増加しています。



■ 絵本を届ける運動（東京/大阪両本社・名古屋支社、金沢支店）

日本語絵本に現地語のシールを貼り、東南アジアの子どもたちに贈る活動で、東京本社では、毎週木曜日の昼休みに5F社友室を借りて活動中です。



■ 「スワンベーカリー」のパン販売

スワンベーカリーとは、障がいを持つ人々に適正な賃金での雇用を促進する目的で、ヤマト財団により設立されたベーカリーで、2008年5月より、毎週水曜日に「スワンベーカリー」のパンを東京本社の社員食堂にて販売しています。多くの社員が積極的に購入し、スワンのみなさんから「毎回パンをたくさん買ってもらい、有難い」と好評です。



■ ふれあいのネットワーク 自然観察会

東京本社近隣の青山墓地での月1回の定期自然観察の他に、新宿御苑自然観察を4月初旬、セミの羽化観察会を8月初旬、横沢入観察会を10月初旬に実施し、社員及びその家族が参加しています。



■ ふれあいのネットワーク 音読部会 開催：第2土曜日

伊藤忠商事社員・グループ会社社員、OB・OGの有志が、毎月1回、渋谷の高齢者施設を訪問し、音読や合唱を通じて交流を行っています。今年で14年目を迎え、息の長い熱心な活動に対し感謝状もいただいています。



社会貢献の主な活動：被災地復興支援の取組

2013年3月に発生した東日本大震災は、東日本全域に甚大な被害をもたらしました。伊藤忠商事では、長期的な視野で復興支援に取り組んでいきます。

伊藤忠子どもの夢ファンド

「伊藤忠子どもの夢ファンド」とは、東日本大震災で被災した子どもたちへのサポートを目的に、伊藤忠商事が2013年3月より展開している復興支援活動です。2015年度は下記の支援を実施しました。これからもさまざまなジャンルで、継続的に子どもたちの夢を応援していきます。

■ 「伊藤忠子どもの夢カップ」開催による少年野球チームの支援

震災で特に大きな被害を受けた陸前高田市で頑張っている子ども達を支援するため、陸前高田市の全スポーツ少年団6チームが参加する少年野球大会「伊藤忠子どもの夢カップ」を2015年も春季及び秋季2回開催しました。

春季大会は2015年5月30日、31日、秋季大会は9月26日、27日に、いずれも陸前高田市立小友小学校グラウンドにて開催され、伊藤忠グループ社員もボランティアとして大会に参加しました。秋季大会では、伊藤忠グループ会社の野球部の現役選手が中心となったチームと親善試合も行い子どもたちとの交流を深めました。



■ 「伊藤忠子どもの夢スノーボード教室」の開催

2016年2月28日、岩手、福島、宮城、茨城県在住のスノーボード選手を夢見る子どもたちを対象に、長野、ソルトレイク五輪代表選手や、今井郁海選手を始めとする次期オリンピック代表候補の国内強化選手全9名を講師陣とする「伊藤忠子どもの夢スノーボード教室」を福島県グランデコスノーリゾートで開催しました。午前中は、一流選手から技術の指導を受け、午後はジャンプ発表会を実施し、午前中に教えてもらった技を各々が披露。その素晴らしい成長ぶりに採点をした選手一同、拍手喝采でした。入賞者には、伊藤忠商事が展開するAIRWALKブランドのスノーボード日本代表チームオフィシャルウェア等がプレゼントされました。



■ 第4弾 「伊藤忠子どもの夢サマーキャンプ in 陸前高田」の開催

「伊藤忠子どもの夢ファンド」第4弾として、2015年7月31日、8月1日の2日間、「伊藤忠子どもの夢サマーキャンプ in 陸前高田」を開催しました。

英語スポーツキャンプを実施しているSCOA (SPORTS CAMP OF AMERICA) のプログラムを利用し、陸前高田市在住の小学4年生～中学1年生（一般募集）が参加しました。アメリカから17名の大学生アスリートが来日し、英語キャンプのカウンセラー（指導員）としてチアダンス、サッカー、野球、フリスビーなど様々なスポーツを英語で子どもたちに指導しました。

スポーツという共通言語を通して、また、キャンプファイヤーなどアメリカのサマーキャンプでよく行われるアクティビティを通して、子どもたちが異文化に触れる絶好の機会となりました。



■ 第5弾「TMSO（Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra：東京都交響楽団）×ITOCHU Class Concert」の開催

2016年1月20日、21日、公益財団法人東京都交響楽団に協賛し、震災により大きな被害を受けた福島県の子どもたちを音楽で励ますため、昨年に引き続き2回目となった「TMSO（Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra：東京都交響楽団）×ITOCHU Class Concert」を開催しました。いわき市内の養護学校二校（いわき養護学校、平養護学校）、また福島第一原子力発電所から30km圏内となる川内中学校、広野中学校を訪問し、弦楽四重奏の演奏会が計4回行われました。

コンサートでは、多様なジャンルの曲の演奏のほかに、子どもたちとの合唱の共演、また演奏者からヴァイオリンの弾き方を教えてもらう楽器体験の時間も設け、音楽を通して被災地に元気を届けました。

東京都交響楽団と伊藤忠商事は、2013年度から協同して音楽を通じた被災地支援を実施しています。



■ 伊藤忠たかたのゆめプロジェクト

伊藤忠商事では、食品原料の販売会社である伊藤忠食糧株式会社を通じて、岩手県陸前高田市のブランド米「たかたのゆめ」の販売支援を実施しています。

「たかたのゆめ」は、津波で甚大な被害に遭った陸前高田市が、地域競争力の確保、農業復興のシンボルとして、地域ブランド米としての確立を目指し2013年秋から展開しているお米です。本プロジェクトでは、生産過程においても伊藤忠グループの社員ボランティアが現地農家の方と交流しつつ、2015年度も5月の田植えから、10月の稲刈りまで継続して支援しました。また、「たかたのゆめ」の認知度向上を目的に、東京本社周辺の飲食店を巻き込むなど様々なPR施策を実施しています。このような当社の取組が評価され、国産農産物等の消費拡大に寄与した事業者・団体等の取組を表彰するフード・アクション・ニッポンアワード2015にて「食べて応援しよう！賞」を受賞しました。伊藤忠グループのプラットフォームやノウハウを活用し、「たかたのゆめ」の生産から販売までを支援することで、本業を通じた被災地支援を行っています。



■ 「JAPAN HARVEST キム・ギオットーネ」への食材提供

2015年11月7日、8日、農林水産省が主催する食と農林漁業のPRイベント「JAPAN HARVEST」にて、食通芸人としても知られる木村祐一さんと、笹島シェフ（イル・ギオットーネオーナーシェフ）と公募された17名のキッズシェフが「日本を代表するお米メニュー」を開発し販売するブース「キム・ギオットーネ・ジュニアブース」が出店し、「たかたのゆめ」を使用したメニューが販売されました。使用する食材は、「たかたのゆめ」を中心に伊藤忠グループから提供し、「たかたのゆめ」をより多くの方に食べて頂く機会となりました。



■ 「3.11食べて応援しよう！たかたのゆめプロジェクトin 青山」の実施

2016年3月11日、青山の街全体で「たかたのゆめ」を応援するキャンペーン「3.11 食べて応援しよう！たかたのゆめプロジェクトin 青山」を2015年に引き続き、実施しました。趣旨に賛同頂いた表参道から青山周辺の参加飲食店舗20店に「たかたのゆめ」を提供し、各店舗のランチタイムのご飯やパンに「たかたのゆめ」を使用したメニューを提供頂きました。より多くの方に「たかたのゆめ」を食べて頂くことで被災地支援につなげようと、協力店舗やお客さまが丸となり、陸前高田を応援する機会となりました。



伊藤忠記念財団を通じた被災地支援活動

■ 伊藤忠記念財団と共に 東南アジアに絵本を贈ろう in 東北

「東南アジアの子ども達へ日本語絵本に現地語翻訳シールを貼って届ける活動」を行っている公益社団法人シャント国際ボランティア会より購入したキットを使用し、現地語の翻訳シールを絵本に貼る作業を、伊藤忠記念財団と共に、毎週、社員ボランティアが行っていますが、この活動を被災地の子どもたちにも拡げる取組みを2014年度から実施しています。2015年度は、福島、岩手、宮城の3県の家庭文庫や図書館、小中高等学校など19カ所で、現地で子どもの読書活動されている7団体のご協力を得て、延べ440名がこの活動に参加しました。



■ 株主の皆様と行う「子どもの本100冊図書館の寄贈」

株主様宛情報の電子化にご承認いただき、節約できた用紙代・郵送料等を、伊藤忠記念財団が行う文庫助成に協力する活動を2012年度から行っています。2015年度は4,961名の株主様にご賛同いただき、伊藤忠商事からも同額のマッチングを加え、伊藤忠記念財団が東日本大震災で大きな被害を受けた以下の11校に、地元書店を通じて新品の図書セットを届けました。



【2015年度寄贈先】

岩手県	大船渡市 蛸ノ浦小学校、久慈市 久慈湊小学校、宮古市 千徳小学校 津軽石小学校
宮城県	東松島市 大曲小学校、南三陸町 志津川小学校、亘理町 逢隈小学校
福島県	いわき市 高久小学校、新地町 新地小学校、二本松市 原瀬小学校、福島市 三河台小学校

その他の復興支援活動

■ 福島の児童養護施設の子ども達への教育支援

NPO法人BLUE FOR TOHOKU（代表：小木曾麻里）は、東日本大震災をきっかけに発足した、震災遺児を含む児童養護施設への支援を行う団体で、福島県の児童養護施設の子どもたちの学業支援や就業支援を中心に支援しています。伊藤忠商事は当団体の趣旨に賛同し、2015年3月に伊藤忠商事東京本社にて実施した東日本大震災4年社員募金で集まった金額に会社からのマッチングを加えた合計1,125,128円を主催団体のNPO法人BLUE FOR TOHOKUに寄付しました。当寄付金を活用し、福島の児童養護施設の子どもたちを東京に招待し、「笑顔で過ごす夏休みの思い出をプレゼントする」プロジェクト「おいでよ！東京2015」が2015年8月17日に実施されました。伊藤忠商事は寄付金に加え、2014年に引き続き、キッズニアチケットの協賛も行いました。参加した約40名の子どもたちは、午前中は職業体験施設「キッズニア」を体験し、午後は、施設対抗のミニ運動会で、かけっこや綱引きを行いました。カシや外国人など多くのボランティアと一緒に参加し、子ども達と交流しました。



■ 伊藤忠青山アーツスクエアにて被災地支援の東北写真展を開催

2016年3月8～15日、伊藤忠青山アーツスクエアにて、東日本大震災の復興支援の一環として、東北の写真展「アートは震災を風化させない。マグダレナ・ソレ写真展 -SINCE THAT DAY-」を開催しました。マグダレナさんは、ニューヨーク在住の女性写真家で2008年にはチームとしてアカデミー賞長編映画作品賞を受賞、震災直後より被災地を訪れて、写真を通じて被災地の人々の心を癒す活動を続けてきました。当写真展は4年間で彼女が撮り続けてきた岩手・福島・宮城の作品群の中から忘れてはならない東北の記憶として、展示したものです。東日本大震災から5年目となる2016年3月11日には、被災地で活動するイラストレーター長友心平さんと共にトークショーを行い、来場した約130名のお客様に「被災地の写真はつらい過去を思い出させるかもしれない。でも、芸術は人々を悲しみから救うこともある。写真を通じ、東北の美しさを紹介し、より多くの人に東北に足を運んでもらいたい」と語りました。

